

私のおすすめ この1冊！

日本歯科評論 増刊 2011

疾患を有する高齢者が来院したら？

—歯科医師・スタッフが知っておきたいポイント—

佐藤 田鶴子 編著

A4 変判・194 頁・定価 6,090 円（税込）

2011 年 10 月 26 日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

高橋 英登

（東京都杉並区／井荻歯科医院）



世界に類を見ない超々高齢社会に突入しつつあるわが国では、近年、高齢者の介護や在宅診療に関する著作やノウハウ本などが氾濫している。たしかに、歯科医療に従事している者にとって、在宅でわれわれの助けを待っている“疾患を持つ高齢者”への対応はますます重要となろう。そういった方々への訪問歯科診療はもちろん大切であるが、実は一般診療の現場では日々、ご高齢の患者さんを数多く拝見しており、しかもそれらの患者さんのほとんどが何らかの疾患を有しているのである。

編著者の“まえがき”に「一般の歯科診療所を受診する高齢患者は、以前なら外来での受診がかなわなかったような状態であっても、わが国の進んだ一般医療体制下で多くの全身疾患を抱えながら来院できるようになった。したがって、一見健康そうに見える高齢患者の中には、歯科処置を受けるにあたり相当な覚悟をもって受診する方もおり、これは歯科医療者にとってみると、薄氷を踏む思いで一本の歯の治療に臨まなければならないことにもなる」との記述があるが、これが現実で、われわれはこのような患者さんと日々向き合い、“危険”の中で診療を行っている。今まで何のトラブルも発生

しなかったのは、ただ「運がよかっただけ」なのかもしれない。しかし今後、何らかの疾患を有するご高齢の患者さんのさらなる増加は明らかであり、従前のように“歯”だけ“口の中”だけを診る診療行為では、トラブル発生頻度は確実に上昇するであろう。

本書が類似書と大きく異なるのは、まずは病名ありきでない点であろう。たとえば「糖尿病の患者さんに対する注意はこうです！」といった単なる解説書ではなく、診療室や待合室にいらした患者さんの特徴（病状）を的確に表現したイラスト（これは特筆ものである!!）で示し、「この患者さんの歯科診療開始にあたり何を考えるべきでしょうか？」と問いかけ、次ページに初めて病名が記され、臨床の現場に即した対処法が Q&A 形式でわかりやすく解説されるという、非常に読みやすい構成となっている。

また本書で取り上げられている疾患は、一般的な歯科診療所に来院されるご高齢の患者さんが抱えている standard-disease であり、70 歳を超えて、ここに詳説されている疾患をひとつも有していない方はほぼ皆無といっても過言ではないだろう。

特に近年、内科や整形外科に通院

されている後期高齢者のおばあさんでビスフォスフォネート系薬剤を投与されていない方は非常に希であり、降圧剤の投与を受けていないおじいちゃんもわずかである。そして長い間喫煙していたおじいちゃんは COPD になり、O₂ ボンベを引きずっての来院である。こういったリスクを多く抱えた患者さんに日々対峙しているわれわれが、これらの疾患や薬剤に対する知識を十分に持っていないとしたら、リスク管理上あまりにもマズイ!!

私の大学時代の恩師である編著者：佐藤 田鶴子教授は漢方処方を含め薬剤の投与法等に関する著作も多い。本書でも、種々の薬剤を投与されている患者さんへの対応という点で、佐藤教授ならではの有用な情報が数多く例示されていることを強調したい。

本書は、これからの超々高齢社会の中で、患者さんにとって、そして自院にとって、安全・安心診療の必読書であり、全身管理に対して造詣を深くする必要がある一般開業医にとって、“ころばぬ先の杖”としてバイブル的存在になる名著である。